



「志定まれば・・・」

校長 吉田 亘

この9月以降に大きな決定が行われました。2020年のオリンピック東京開催です。

7年後のオリンピックが東京で開催されることが9月7日に決定されると、それに向けて、様々なことが動き出しました。その中には、既に決まっていたことも、新たに考え出されたこともあります。国立霞ヶ丘競技場の建て替えは事前に決まっていたのですが、東京開催によって、その意義は大きくなりました。新たな動きとして、企業の持つ「ビッグデータ」と呼ばれる膨大な情報を五輪に向けて活用し、渋滞緩和、気象の災害予測を行う計画も動き出しました。9月の末には、スポーツ祭東京2013の開会式がオリンピックを意識した演出で行われました。道路や鉄道の整備計画もどんどん動いています。

大きな目標が決まると、その成功に向けて、全体が大きく動き出すということです。

さて、田高生の目標はどうでしょうか。4月に進路希望調査が行われました。

	四大文	四大理	大学校	短大	専門	看護	公務員	民間	他
1年生	115	91	15	1	9	3	0	0	3
2年生	111	81	9	4	15	3	4	0	3
3年生	135	56	1	9	10	6	3	2	3

大学・大学校への志望が1年生93%、2年生87%、3年生85%です。つまり大部分が四年制大学を志望しています。では、その準備はできているのでしょうか。

下の表は、7月の生活アンケートの結果から抜粋したものです。自宅学習の時間、携帯電話やインターネット等の使用時間の調査ですが、どうでしょう。

【自宅学習時間】

	30分未満	30分～ 1時間	1時間～ 2時間	2時間～ 3時間	3時間～ 4時間	4時間～	平均 (分)
1年生	56	61	82	25	2	5	70.7
2年生	75	45	55	22	5	5	65.9
3年生	19	34	49	54	25	26	124.7

【携帯電話やインターネット等の使用時間】

	使わない	30分未満	30分～ 1時間	1時間～ 2時間	2時間～ 3時間	3時間～	平均 (分)
1年生	8	22	28	47	43	83	114.7
2年生	12	28	37	42	36	53	97.0
3年生	16	28	28	20	43	72	109.1

平均学習時間は、1年生71分、2年生66分、3年生124分です。とても大学進学を目指す人の学習時間とはいえません。一般に(学年+1)時間の学習時間を確保することが必要と言われています。また、学習時間よりも携帯電話・インターネット利用時間の方が多いという結果には驚かされます。つまり、「志望」はまだ「目標」になっていないということです。ある調査によると、高校2年のうちに自分の志望大学を具体的に決めることで、合格率が大きく伸びるという結果になったというデータがあります。2学期は自分の将来を考える重要な時期です。3年生は当然のこと、1、2年生も来年度の教科選択が、自分の将来を方向付けることとなります。しっかりと将来の「目標」を定めて、学校生活を送ってください。

2020年には、皆さんは23歳から25歳です。社会人としてスタートしたり、大学や大学院で研究したり、それぞれが活躍していると思います。その姿を想像して、しっかりと今を過ごしてください。「志定まれば気盛んなり」(吉田松陰)ですね。

考える力を ～ある問いが意味するところ～

副校長 野村 悟

10月より毎土曜日に3、2年生を対象にした『現代文ゼミ』という講習を始めた。その講習中に、ある詩について考えてもらった。

安西冬衛の有名な詩なので知っている人もいるだろうが、ぜひここで考えてみてほしい。

てふてふが一匹韃靼海峡を渡つて行つた

この短い1行詩には、文章を読解する上で幾つかの重要なエッセンスが含まれている。端的に列挙するならば、以下の3点である。

- | |
|----------|
| ① 視点 |
| ② 対比 |
| ③ コンテキスト |

では問題である。

問題1 (視点に関する問い) 詩の《話者》はどこで(場所)この詩を読んでいるのか?

問題2 (対比に関する問い) 詩では、ある語と語が対比されている。その語とはどれとどれか?

さて、それぞれの解答はどうか?(もし授業であるならば、ここで指名して答えてもらうところなのだか…)ぜひ、各自で考えてみてほしい。特に、問題1はイラスト化すると解答が幾つかに分裂して面白い。

自分自身の思考を鍛えるには、常日頃から思考するという意識を必要とする必要がある。(心理学的な知見から言うと【メタ認知】と言換できるだろう。つまり、思考している自分自身を一段上から認識しているということになる。)そしてその意識の方略とは、将に上記の①と②に他ならない。

いかにして自身の中に思考する指針(中心となる柱のようなもの)をもっておくかということである。その指針(柱)は、生涯にわたって自分の重要な武器ともなる。

ただし、思考力の指針(ここでいう視点や対比)は、常にオンライン状態にしておかないと意味がない。そのために、トレーニングが必要なのだ。

生徒のみなさんには、ぜひとも思考の指針を自分の中に確立してほしいと願っている。そして、授業などの学校生活の中で、それを練成してほしいのである。

ところで③の「コンテキスト」に関しては、究極の【問題】がある。先行研究(向山洋一氏著作物)でこの問いの存在を知ったとき、将に目から鱗が落ちた。

その究極の問いとは、果たしてどのようなものか……【話者(筆者)はこの詩を読んだ時、幸せだったのか不幸せだったか?】という問題である

これもぜひ、考えてみてほしい。これも思考力を育成するトレーニングである。

田高の進路指導は現在進行形!

進路指導部 広瀬 美咲

過ごしやすい季節になりました。勉強にも力が入っていることでしょう。年明けに行われるセンター試験の出願も先日終わり、あとは受験当日まで集中してどれだけ力を伸ばせるかが勝負です。現役生はこれから力がついてきますから、コツコツ取り組んでください。

また、先日、指定校推薦の選考会議が行われ、校内選考を通過した生徒が37名います。それらの生徒は気を抜くことなく、これから田高の代表としてそれぞれの進学先で力を発揮できるよう、今しかできないことに取り組んで欲しいと思っています。

1、2年生は来年度の選択科目を選ぶ時期になりました。連日多くの生徒が、「私はどうしたらいいですか?」と質問に訪れます。

そのためには、将来自分の就きたい職業について考え、そのために必要な進路について考え、そして

必要な科目について考える、という作業が必要です。皆さんはそれができているでしょうか？

10月31日には1、2年生全員参加の大学・専門学校説明会が行われます。大学が13校、専門学校が14校参加するイベントですので、興味のある分野に参加して自分の進路を決定する参考にして下さい。

最近の報道と大学生の会話から

生活指導部 荻原 秀明

最近の報道で気になる話題として、「ネット社会の怖さ」や、「社会的規範意識の低下」がある。手軽に使える SNS（ソーシャルネットワーク）は、今までとは違った新しい社会を形成している。自分を登録し、情報を発信する。それだけで見知らぬ人との出会いが簡単にできる仕組みだ。この簡単さが受け入れられている。性善説に立てば国と時間を超え素晴らしい社会ができるはずだ。しかし、現実が違う。全てが悪いわけではないが、悪用している人たちもいる。また、最初から悪意を持って参加していても、あるきっかけから、豹変する事もある。

女子高校生が殺される痛ましい事件起きている。SNS の怖さが現実に表面化した事件だ。自分の意志とは違う事態に陥ってしまう恐ろしさを感じる。また、悪ふざけによる写真投稿も記憶に新しい。鼻に食品を入れている、アイスクリームの容器に横たわっている、食品冷蔵庫に入っている、そして、食器洗い機に足を入れている写真が投稿されている。最後の写真の場合、投稿の影響で店舗は潰れ、投稿した大学生は処分を受けている。また、大学生に対し損害賠償を請求したとの報道もある。

では、「身を守る術」や「社会的非難を受ける行動を避ける」にはどのようにすればいいのだろうか。SNS 上では、実は孤独だ。自分は、「誰にも邪魔されない」とか「誰にも正体がわからない」とか思いがちであり、そこが落とし穴でもある。ネットの世界は、アドレス管理され手繰ることができる。報道で、手繰り難さを利用した海外サーバーを使う犯罪が聞かれる。しかし、出した情報はどこかに残り発信元を探り当てる。

「ネット社会の怖さ」については、情報を発信する際には自分の個人情報を書き込まないことが事件に巻き込まれないための最小限の手立てだ。自信の無い者は、発信しないことがベストな選択。「社会的規範意識の低下」については、実社会で批判を受けることは行わないこと、行為に迷ったら行わないことが基本だ。

ある大学3年生が電車の中で話していた会話の一部。

「ツイッターやってる？」

「今は、やっていない。」

「最初は mixi やってたよ。次は、Facebook。」

「・・・・・・・・・・」

「LINE に、少し前まで Twitter やってた。」

「なんでやめたの？便利だし、面白いのに。」

「傷つくのは自分だから。周りは自分勝手すぎる。別に、SNS 使わなくても話をすれば、不便していないよ。」

「・・・・・・・・・・」

3つの『あ』

3学年担任 高野瀬 一

3年生が輝かしく活躍したぼろにあ祭も終わり、2学期も折り返し地点を迎えようとしているこの時期、多くの生徒が必死に学問と向き合っていることと思います。私自身にも覚えがありますが、まだ経験したことのない大学受験には、たくさんの不安が付き纏います。つい逃げ出したくなったり、あせって自分を見失ったり、受験そのものから目を逸らして「なんとかなるさ」と高を括ってみたりしがちです。学年集会でも触れましたが、私は恩師からいただいた、3つの『あ』を大切にしています。皆さんにも少しは参考にできる場所があるのではないかと思いますので、再度紹介させて下さい。

あきらめない あせらない あなどらない

第一志望をどうかあきらめないで、最後まで努力して下さい。不安になることもありますがあせらないで、こつこつと努力して下さい。まあ、こんなもので何とかなのではないかと受験をあなどることなく、集中して努力して下さい。3学年担任団は、皆さんがこの自分自身との戦いに勝利して、大きく成長する姿を心から楽しみにしています。

「いよいよ3年0学期へ」

2学年担任 駒場 晃

2年生も早いもので、高校生活の折り返し地点を過ぎました。まだまだ、高校生活を楽しまないところだと思いますが、そろそろ次のステージに向け、努力を始めなければならない時期になりました。まず、考えなければならないのが、将来の方向性です。現在、2年生は、来年度の選択科目調査を行っています。将来、どの道に進むのか明確でないまま、選択科目を決定することはできません。選択を誤れば、希望の職種につけないこともあります。生徒にとっては、初めておとずれた重要なターニングポイントです。しかし、現状では真剣に将来のことを考えていない生徒もおり、個人面談などで考える機会をつくっています。この機会に方向性を固め、最善の選択をして3学年を有意義に迎えられる3年0学期（2年3学期）にしたいと思えます。

保護者の皆さまにおかれましては、進路について、よく話し合いを持っていただき、本人・御家庭・学校が三位一体となって進路実現に向けた取り組みを行っていきたくと考えております。今後ともご協力をお願い申し上げます。

「奉仕」

1学年担任 有馬 聡

夏休み中、嶺町特別出張所で「子ども夏まつり」が行なわれ、奉仕の授業の一環として1年生41名が参加し、会場準備や各企画の運営補助、後片付けなどを行い、また地域の方々との交流を深めました。後日、出張所の担当の方からお電話を頂き、「子ども夏まつり」の運営全体の反省会の場で「高校生たちがよくやってくれていたという話が出ました」という旨のお褒めの言葉を頂戴いたしました。

奉仕という授業のねらいとして「高校生で社会をより良く変えよう！」というものがありますが、ボランティア活動を通して生徒自身が「変わる」ということも大きなねらいの一つです。学校では経験できない「何か」を通して社会を見る目が広がり、また、自分に対する見方を変えることができると思っています。

本校の奉仕の授業はポイント制で、全体で35ポイント（1ポイントは50分）のうち20ポイントは自分でボランティア先を探し、学校指定の活動証明書を発行してもらうことで、単位の修得が認められます。既に夏休み等の活動で20ポイントを超える活動をした生徒も多数いますが、まだ数ポイントしか終わっていないという者も多くいます。ご家庭におかれましては、お子様に様子を尋ね、積極的にボランティア活動に参加するよう働きかけていただきますよう、お願い申し上げます。

授業公開のお知らせ

11月1日(金)、2日(土)、6日(水)、7日(木)の授業を公開いたします。
詳しい時程等につきましては、別紙またはホームページでご確認ください。

